

## 1. 活動概要

「地域医療・総合診療実践学寄附講座」は、平成27年度末に廃止された「地域医療システム学寄附講座」の後継として平成28年4月1日に設置されました。その後平成31年4月から3年間延長され、令和3年度がその最終年度となっています。なお、当寄附講座のこれまでの実績と本県における医師の地域偏在の解消、さらなる地域医療の充実のために、地域医療を担う総合診療医等を養成する当寄附講座をさらに3年間延長することとされました。

同講座は、超高齢社会における様々な医療ニーズに応えられるよう、これまでの医師循環システムに関する調査研究や地域医療実習教育に関する調査研究等の成果を踏まえ、「医学生や若手医師への卒前からの一貫した地域医療教育」「総合診療医の育成」「地域医療実践教育拠点の運営」など、地域医療を志す医師の養成を目指して、より実践的な取り組みを進めています。

具体的には、熊本大学医学部医学科学生(熊本県医師修学資金貸与学生を含む。)や若手医師に対して、卒前からの一貫した地域医療教育を通じた地域医療マインドの涵養に取り組んでいます。また、今後、地域医療への貢献が期待される総合診療専門医の育成において、熊本県内の公的病院等が連携するに当たり、同講座が中心的な役割を果たすとともに、教育拠点運営支援や地域医療機関における診療支援を促進することとしています。

## 【主な内容】

- I. 地域医療支援(診療支援)
- II. 調査・研究
- III. 教育活動
  - ・ 卒前教育(カリキュラム外教育)
  - ・ 卒前教育(カリキュラム内教育)
  - ・ 卒後教育
    - 初期臨床研修
    - 専門研修
- IV. 専門医資格修得後のキャリア支援
- V. 講演会

## 2. 年間活動実績

月	日	行事
4	17	第17回レジデントデイ
5	14	クリクラ第10ターム 振り返り会
	28	第5回 熊本大学総合診療セミナー
6	4	クリクラ第11ターム 振り返り会
	5	第6回 熊本大学総合診療セミナー
	25	クリクラ第12ターム 振り返り会
7	14	令和3年度合同Webカンファレンス①
8	11	令和3年度合同Webカンファレンス②
9	2	TMEC
	3	クリクラ第1ターム 振り返り会
	8	令和3年度合同Webカンファレンス③
	22	TMEC
10	24	クリクラ第2ターム、第13ターム 振り返り会
	14	TMEC
	15	クリクラ第3ターム 振り返り会
	16	第7回 熊本大学総合診療セミナー
11	29	第18回レジデントデイ
	4	TMEC
	5	クリクラ第4ターム 振り返り会
	10	令和3年度合同Webカンファレンス④
	26	クリクラ第5ターム 振り返り会
12	8	令和3年度合同Webカンファレンス⑤
	15	第17回総合診療グランドラウンド
	17	クリクラ第6ターム 振り返り会
	22	第19回レジデントデイ
1	23	第8回 熊本大学総合診療セミナー
	15	第15回レジデントデイ
2	20	TMEC
	2	第18回総合診療グランドラウンド
3	26	第3回熊本大学総合診療セミナー
	2	第20回レジデントデイ
3	24	TMEC
	25	クリクラ第10ターム 振り返り会

※ クリクラ第7、8、9タームはコロナ感染拡大により中止

### 3. 活動報告

#### I 地域医療支援(診療支援)

大学病院においては、「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、専門診療科以外の受診を目的とした初診患者を中心に診療を行いました。また、大学病院の救急外来診療等も担当しました。

玉名教育拠点にては、「総合診療科」の外来及び病棟診療を行いました。また、同院の救急診療にも携わりました。その他の熊本県内の医師が不足している病院に対し、県からの要請に基づき、診療支援活動を行いました。

#### ◆ 大学病院 総合診療外来

月	火	水	木	金
谷口	松井	高柳	佐土原	北村
			谷口(奇数週)	

#### ◆ 学外診療支援

谷口	2021.4~2021.8	くまもと県北病院(第1、3、5週)
	2021.4~2022.3	天草地域医療センター(第2、4週)
佐土原	2021.4~2022.3	公立多良木病院(週1回)
北村	2021.4~2022.3	山都町包括医療センターそよう病院(週1回)
	2021.4~2022.3	くまもと県北病院(週1回)

#### II 調査・研究

#### ◆ 地域医療実習教育に関する調査研究

修学資金貸与による義務年限を有する学生の将来のキャリア支援と定着の要因の解析と例年行ってきた地域医療特別実習の効果を見るために実習前後での質的・量的なアンケートを実施しており、新型コロナウイルス感染症のパンデミック前の2019年のデータを解析、学会発表を終え、現在論文投稿準備中です。その後は、コロナ禍で開催できず、ポストコロナ時代の地域医療特別実習のあり方についても実施の目処が立ち次第、調査に移る予定です。

#### ◆ 総合診療専門医普及に関する調査研究

当講座では、日本専門医機構の基本領域専門医である総合診療専門医の育成を担っています。医師の働き方改革の解決策の一つのモデルを米国のホスピタリスト(病院総合医)に求め、日米の医療制度の違いや労働の実態の比較から、平成30年に米国のホスピタリスト(病院総合医)にインタビューしたデータを質的に解析したものを学会発表済みです。今後、論文化する予定であります。

総合診療専門医のアカデミックな活動の支援として、2019年に兵庫医科大学臨床疫学共催でワークショップを行いました。その活動の一環で、2021年は、研究倫理ワークショップを開催しました。いずれもAMED(日本医療研究開発機構)の臨床研究トレーニングに組み入れられた能動的な研究倫理学習プログラムに準拠しており、その効果についてワークショップ前後でのアンケートの比較を通じて、兵庫医科大学と共同で解析中です。

#### ◆ 医療機関の勤務環境に関する調査研究

研修医が地域医療研修において困難を克己して安全な研修生活を送るためのキャリア支援につなげるために、研修医のレジリエンスと地域医療研修との関係について2019年から2021年までアンケート調査による縦断研究を行いました。会及び科学研究費助成事業の報告書として報告済みで、論文化を進めています。

## ◆ 教育拠点に関する調査研究

教育拠点に関する調査については、総合診療科、地域医療支援機構、各教育拠点と連携して、次のような取り組みを行っています。

くまもと県北教育拠点については、総合診療科専攻医の教育、初期臨床研修、地域医療・総合診療に係る学生実習の拠点として活動しています。現在2人の総合診療科の専攻医が勤務しており、くまもと県北病院との連携により本人のキャリア形成に向けた取り組みについて課題等の把握を行いました。天草地域医療センターに平成31年4月に設置した天草教育拠点については、熊大病院との連携として天草地域医療センターで総合診療に関する学生の臨床実習を実施し、課題等について把握を行いました。

また、令和3年4月から天草市立河浦病院に新たな教育拠点を設置し、へき地の中心的な医療機関における地域で必要とされる医師の育成・教育機能向上を図る観点から調査を行っています。総合診療科の専攻医が10月から配属になり、当講座の教員の指導の下診療を行い、課題等についての検証が進められています。

## Ⅲ 教育活動

### ◆ 卒前教育(カリキュラム外教育)

#### ① 地域医療ゼミ

地域枠学生等(熊本県医師修学資金貸与学生)を主な対象に実施している地域医療ゼミは、今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、主にリモートでの開催としました。「マンガメディケーション」や更新される「キャリア形成プログラム」に関する説明、講演、グループ討議等合計11回の活動を行いました。

なお、第1回ゼミは、新入生の歓迎会を兼ねて対面で実施し、自治医大生、県外枠の修学資金貸与学生が参加できるようZOOMでも対応できるハイブリット方式で行いました。また、第11回ゼミでは、6年生の卒業を祝って、追出しゼミとして対面で実施しました。

#### ② 夏季地域医療特別実習

夏季地域医療特別実習は、熊本県医師修学資金を貸与されている学生及び熊本県出身自治医科大生を対象として毎年県内各地で開催しています。将来地域医療に従事することが予定されている学生にとって、「地域を知る」ことで、将来の自身の医療者像を考え、地域での医療に主体的に係わる動機づけとなることが期待できることから、今年度もコロナ禍の中でも実施できる方策を検討しましたが、例年通りの実習の実施は見送りとなりました。このため、規模を縮小して、対象を熊大の2年生と1年生を対象として、少人数のグループに分けて、第2グループの病院で個別に実習することも模索したところですが、第6波の感染拡大を受けて再び中止せざるを得なくなりました。

### ◆ 卒前教育(カリキュラム内教育)

地域医療システム学寄附講座を設置以来、これまでも医学科カリキュラムの実施に協力してきましたが、今年度も、地域医療・総合診療実践学寄附講座として、医学科長からの依頼に基づき、以下の実習及び講義を行いました。なお、地域医療支援センターへ依頼があった講義(※)も一緒に記載しています。

- ・1年生：早期臨床体験実習Ⅰ、医学概論※
- ・2年生：早期臨床体験実習Ⅱ、医学英語
- ・3年生：早期臨床体験実習Ⅲ、公衆衛生学
- ・4年生：医療と社会Ⅰ、総合診療学、臨床実習入門、チュートリアル
- ・5年生：特別臨床実習
- ・6年生：特別臨床実習

## 【1年生】

医学概論	
2021/4/19	谷口 熊本大学医学部の歴史
2021/6/14	後藤 医師のキャリア形成、多様性推進

早期臨床体験実習Ⅰ	
2021/7/8,15	谷口 「ECE 向け準備」
2021/9/30,10/7	松井・谷口 ECEⅠ 発表会

行動科学Ⅰ	
2021/7/26	谷口 「コミュニケーション」
2021/8/2	谷口・高野 「医療における自由と制限」

## 【2年生】

医学英語	
2021/11/10	佐土原 「地域医療」
2020/11/24	小山 「プライマリケア」

## ① 早期臨床体験実習Ⅰ・Ⅱ (ECEⅠ・Ⅱ)

早期臨床体験実習Ⅰは1学年を対象とし、Ⅱは2学年を対象として、6年前に改正された新カリキュラムに基づき必修科目として実施されているものであり、Ⅰは従来から実施していた「早期社会体験実習」の名称を変えて、またⅡは3年間の早期臨床体験実習の中間に位置付けています。

早期臨床体験実習Ⅰについては、臨床医学教育研究センターが実施責任者となり、心身障害児(者)施設、慢性疾患療養施設、老人保健施設、特別養護老人ホーム、療養型病院等で1年生110人の実習が予定されていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により実習自体は中止となりました。このため、実習を予定していた施設へのオンライン(ZOOM)インタビューによる代替実習となりました。

また、インタビュー実習後は、9月30日と10月7日の2回にわけてグループ発表会が実施され、その内当講座は9月30日の発表会の指導を担当しました。

早期臨床体験実習Ⅱについては、3月1日及び3月7日に学生を2名受入れる予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で中止となりました。

## 【3年生】

早期臨床体験実習Ⅲ	
2021/9/30	高柳 「オリエンテーション」
2021/11/26	高柳 「導入」
2021/11/29 -2021/12/3	高柳 「学外実習」
2021/12/3	高柳 「振り返りグループワーク」

## ● 早期臨床体験実習Ⅲ 指導医ワークショップ

【日 時】 2021年11月12日(金)

【開催方法】 Zoomによるオンライン開催(後日YouTubeによる動画も公開)

【内 容】 実習概要・目的について、ログブック・評価について、実習詳細について

## ② 早期臨床体験実習Ⅲ (ECEⅢ)

早期臨床体験実習Ⅲは、早期臨床体験実習Ⅰ(1学年対象)及び早期臨床体験実習Ⅱ(2学年対象)に続く完結版として、また上位学年で実施される臨床実習への基礎入門編として3学年を対象に必修として実施されています。

平成26年度入学の学生から適用される新カリキュラムに基づき、当講座が実施しています。

3年度は、11月29日～12月3日の5日間に渡り、県内の87医療機関の協力を得て、3年生全員(116人)が実習を行いました。また、9月30日に学生オリエンテーション、実習前週金曜日(26日)の午後に導入を行い、週明け月曜日には朝から実習に携われるよう日程に配慮して実施。最終日12月3日の午後から振り返りを大学内において実施しました。(上記実習スケジュール)

また、実習実施に当たっては、11月12日、実習受入施設の17施設の指導医及び担当事務を集め、オンラインによる事前説明会を開催して実習の指導徹底を図り、当日参加が難しい64施設には、後日視聴いただけるよう説明会を録画して動画を作成しました。

さらに、昨年同様、学生が実習先の選定材料となるよう、事前に実習協力施設128施設に対し「実習計画調査票」の作成を依頼し、1週間の実習計画についての調査・聞き取りを行いました。

## 【4年生】

医療と社会	
2021/5/19	谷口・下地 「医療人類学」
2021/6/16	後藤・蓮沼 「男女共同参画」

総合診療学	
2021/4/20	谷口 「医療面接総論」
2021/4/27	佐土原 「身体診察概論」
2021/5/11	高柳 「臨床推論概論」
2021/5/18	鶴田 「臨床推論演習 1」
2021/5/25	松本 「臨床推論演習 2」
2021/6/1	中村 「臨床推論演習 3」
2021/6/8	北村 「臨床推論演習 4」
2021/6/15	松井 「総合診療概論」
2021/6/30	谷口 「医療面接各論 SP 実習」

公衆衛生学	
2021/6/25	中本 「地域保健、地域医療②」
2021/6/25	高柳 「地域保健、地域医療③」
2021/7/ 1	鶴田 「保健・医療・福祉・介護の仕組み③」
2021/7/ 1	佐土原 「予防医学と健康維持増進③」

チュートリアル実習	
2021/ 9/27 - 2021/10/8	谷口 一部

臨床実習入門	
2021/ 9/ 6 -2021/ 9/17	松井、谷口、佐土原、高柳、北村 「医療面接」

プレ臨床実習	
2021/10/25 - 2021/10/29	谷口 「電子カルテ実習」

## 【5年－6年生】

### 特別臨床実習(クリクラ:クリニカルクラークシップ)

#### < 授業の目的 >

診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師として最低限必要な医学知識、臨床推論、臨床判断・技能・態度などの能力を身につけることを目標としています。

#### < 授業の概要 >

現在、5 学年の 7 月から 6 学年の 9 月までの全 14 ターム(1 タームは 3 週間)で実施されている特別臨床実習において、当講座は、平成 26 年度から地域医療を提供しています。

▼各医療機関の特別臨床実習「地域医療」および「総合診療\*」における学生受入人数

No.	施設名	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	累計
1	阿蘇医療センター	--	--	--	2	3	1	8	7	10	31
2	天草地域医療センター	--	--	--	5	5	12	13	9	3	47
3	荒尾市民病院	--	--	--	--	5	9	10	11	7	42
4	小国公立病院	4	8	9	3	6	4	4	7	7	52
5	上天草総合病院	3	10	13	4	0	2	6	8	11	57
6	菊池郡市医師会立病院	--	--	--	--	2	7	6	1		16
7	御所浦診療所	--	--	--	5	2	4	5	2	3	21
8	そよう病院	4	4	13	4	0	4	6	4	4	43
9	公立多良木病院	1	0	0	6	2	5	11	7	10	42
10	人吉医療センター	--	8	19	7	7	20	9	12	18	100
11	水俣市立総合医療センター	--	--	--	6	5	9	10	9	15	54
12	山鹿市民医療センター	--	--	--	--	5	8	11	9	7	40
13	熊本総合病院	--	--	--	--	--	7	13	11	11	42
14	熊本労災病院	--	--	--	--	--	10	11	10	13	44
15	公立玉名中央病院(クリクラ総診のみ)	--	--	5	17	16	4	15	8		65
16	河浦病院									1	1
17	栖本病院										0
	合計	12	30	59	59	58	106	138	115	120	697

R2年度の地域医療はインタビュー実習等を含むクリクラ総合診療科実習も含む

#### ◆ 特別臨床実習：地域医療

5学年夏から6学年秋までの全14ターム(1タームは3週間。12タームまでは5・6年次の必須科目。13、14タームは6年次の選択)で実施される特別臨床実習において、当講座は平成26年度から地域医療を提供しています。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で第8タームの学生に関しては、インタビュー実習(電話で実習受入先にあらかじめ用意した質問に答えてもらう質疑応答形式の実習)に変更しました。県内の14医療機関の協力を得て、5・6年生 延べ120人に対し、地域医療実習を提供しました。また、5月には、5学年向けに動画視聴によるオリエンテーションを行いました。



## ◆ 特別臨床実習：総合診療科

この実習は救急・総合診療部の実習ではなく、地域医療・総合診療実践学寄附講座として独立した「総合診療科」の実習となり、1ターム3週間の選択実習を行いました。

今年度、総合診療科としての実習は、大学病院及びくまもと県北教育拠点、天草教育拠点の3か所で延べ32人の実習を提供しました。

くまもと県北病院					
	月	火	水	木	金
1 週目	病棟回診 外来研修 外来レビュー 病棟研修 新患カンファレンス 自己研修	モーニングレクチャー 訪問看護 外来レビュー 多職種カンファレンス 病棟回診 振り返り 自己研修	プライマリケアレクチャー 病棟回診 外来研修 訪問診療or緩和ケア回診 or病棟研修 振り返り 自己研修	病棟回診 外来研修 外来レビュー/各種講義 病棟研修 振り返り 自己研修	病棟回診 訪問診療 病棟研修 週間振り返り 自己研修
2 週目	病棟回診 外来研修 外来レビュー 病棟研修 新患カンファレンス 自己研修	モーニングレクチャー 訪問看護 外来レビュー 多職種カンファレンス 病棟回診 振り返り 自己研修	プライマリケアレクチャー 病棟回診 外来研修 訪問診療or緩和ケア回診 or病棟研修 振り返り 自己研修	病棟回診 外来研修 外来レビュー/各種講義 病棟研修 振り返り 自己研修	病棟回診 訪問診療 病棟研修 週間振り返り 自己研修
3 週目	病棟回診 外来研修 外来レビュー 病棟研修 新患カンファレンス 自己研修	モーニングレクチャー 訪問看護 外来レビュー 多職種カンファレンス 病棟回診 振り返り 自己研修	プライマリケアレクチャー 病棟回診 外来研修 訪問診療or緩和ケア回診 or病棟研修 振り返り 自己研修	病棟回診 外来研修 外来レビュー/各種講義 病棟研修 ジャーナルクラブ	病棟回診 訪問診療 週間振り返り 自己研修

## ◆ 卒後教育

### ① 初期臨床研修

熊本病院群初期臨床研修プログラムで総合診療科(大学病院)を選択した初期臨床研修医3人に対し、総合診療・地域医療に関する教育指導を行いました。

施設名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	研修受け入れ 総人数
熊本大学病院						1						1	2
くまもと県北病院 /くまもと県北教育拠点													0
天草地域医療センター /天草教育拠点										1	1		1

\* 天草教育拠点は、1人の研修医が2ヶ月連続して従事

### ② 専門研修

熊本大学総合診療専門研修プログラムの専攻医5名に対し教育指導を行い、県内の公的病院において昨年からの引き続き研修を行いました。

研修の支援・指導の充実を図るためテレビ会議システムを活用し、症例検討を遠隔で指導する「合同Webカンファレンス」を5回開催するとともに、専攻医の研究発表をテレビ会議システムを通じて各病院へ配信しました。

また、専攻医等が経験した症例・事例の発表を、テレビ会議システムを通じて各病院へ配信しました。当寄附講座としては、専攻医の研修修了要件である経験省察修習記録(ポートフォリオ)の作成指導なども行っており、年5回のレジデントデイを開催することで専門研修の進捗状況の確認と振り返りを行い、よりきめ細かい指導に努め、プログラム修了に向けてさらに丁寧な指導に心がけてまいりました。

なお、令和元年度末で終了した熊本大学地域医療支援・総合診療後期研修プログラムを修了した医師が、家庭医療専門医資格試験に合格しました。また、新専門医制度に基づく熊本大学総合診療専門研修プロ

グラムでは、プログラムを修了した専攻医4人が総合診療専門医の専門医試験に合格しました。  
本年度のプログラムへの応募状況は、初期研修医1名が新たに採用されることになりました。

## ● 熊本大学総合診療専門研修プログラム

当プログラムは、日本専門医機構認定の総合診療医後期研修プログラムです。

熊本大学病院を中心として、熊本県内全域に広がる様々な医療施設の協力のもと、オール熊本として、総合診療専門医の育成に取り組むプログラムです。研修施設には、大学病院や地域中核病院に加え、小規模病院等も含まれ、県庁所在地である熊本市内のみならず、県内の各二次医療圏に研修施設があります。県内全域に広がる多くの施設がプログラムに参加することにより、異なる特性を持つ施設で、その地域に根づいた研修を行うことができ、本人の希望に応じた研修が可能となっています。

また、熊本県医師修学資金貸与の熊本大学卒業生(地域枠入学者を含む)や、熊本県出身の自治医科大学卒業生に対し、総合診療専門医としてのキャリア形成支援に寄与することも目指しています。

## ◆ 研修プログラム

プログラム期間は原則として3年間で、総合診療専門研修、必修の領域別研修(内科、小児科、救急)、その他の選択研修で構成されます。将来の自分のキャリアプランに合わせてローテーション、勤務地の選択が可能です。

総合診療研修	総合診療Ⅰ(診療所・中小病院)	6ヶ月以上	合計 18ヶ月以上
	総合診療Ⅱ(病院総合診療部門)	6ヶ月以上	
領域別研修(必修)	内科	12ヶ月以上	
	小児科	3ヶ月以上	
	救急科	3ヶ月以上	
選択科研修	皮膚科、整形外科、精神科、etc...	希望に応じて	

### ▼ 総合診療研修・必修領域研修機関一覧

総合診療Ⅰ	阿蘇医療センター	小国公立病院	河浦病院	栖本病院	
	そよう病院	公立多良木病院	新和病院	沢田内科医院	
総合診療Ⅱ	安成医院	御所浦診療所	椎原診療所	湯島へき地診療所	
	熊本大学病院	熊本医療センター	上天草総合病院	くまもと県北病院	
内科	人吉医療センター	天草地域医療センター	水俣市立総合医療センター		
	くまもと県北病院	上天草総合病院	人吉医療センター	天草地域医療センター	
小児科	熊本総合病院	くまもと森都総合病院	熊本赤十字病院		
	阿蘇医療センター	くまもと県北病院	人吉医療センター	天草地域医療センター	
救急科	熊本大学病院	熊本医療センター	くまもと県北病院	人吉医療センター	
	天草地域医療センター				
その他の領域	外科	そよう病院	くまもと県北病院	人吉医療センター	天草地域医療センター
		熊本大学病院(消化器外科)	熊本大学病院(乳腺・内分泌外科)	熊本総合病院	山鹿市民医療センター
	産婦人科	人吉医療センター	熊本総合病院	天草中央総合病院	
	整形外科	くまもと県北病院	天草地域医療センター	熊本大学病院	熊本総合病院
	皮膚科	くまもと県北病院			
	泌尿器科	くまもと県北病院	天草地域医療センター	熊本総合病院	
	放射線科	くまもと県北病院	人吉医療センター	天草地域医療センター	天草中央総合病院
	精神科	熊本医療センター			
	麻酔科	くまもと県北病院			
	リハビリテーション科	くまもと県北病院			
臨床疫学	熊本大学病院				

◆ 研修プログラムのスケジュール例

1. 熊本県医師修学資金貸与医師キャリア形成プログラム

① 総合診療コース(例)

卒後(年目)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
① 勤務先の種別	基幹型臨床研修病院		第1グループ		第2グループ		第2グループ	第2又は第3グループ		後期研修(義務内)	義務年限終了	
② 勤務(研修)先医療機関候補	臨床研修 県内の基幹型臨床研修病院		専門研修 ・公立玉名中央病院 ・人吉医療センター ・熊本総合病院 ・天草地域医療センター			・阿蘇医療センター ・小国公立病院 ・そよう病院 ・公立多良木病院 ・上天草総合病院 ・河浦病院 ・新和病院 ・栖本病院		第2グループの医療機関		第2又は第3グループの医療機関 県内の医療機関		
③ 義務償還期間(年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	—		

【備考(総合診療)】

- 第1～3グループ、後期研修(義務内)の順序は入れ替え可能です。
- 第2、3グループの医療機関での勤務期間においては、専門性の向上などを目的として、週1日、勤務先以外の医療機関で研修を行うことが可能です。
- 研修先及び勤務先は、県内の各地域における医師不足状況等を踏まえ、県及び地域医療支援機構において調整した後、熊本県地域医療対策協議会で協議、決定します。

2. 専門研修ローテート(例)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	公立玉名中央病院 総合診療科 内科研修					公立玉名中央病院 総合診療科 総合診療Ⅱ研修			公立玉名中央病院 小児科 小児科研修			
2年目	天草地域医療センター 呼吸器内科 内科研修	天草地域医療センター 内科 内科研修					天草地域医療センター 総合診療科 総合診療Ⅱ研修					
3年目	御所浦診療所 総合診療Ⅰ研修											

※ 玉名研修中に総診Ⅱ研修と並行して週1日の救急研修

◆ 研修施設一覧 令和3年度

1	くまもと森都総合病院	13	河浦病院
2	熊本赤十字病院	14	御所浦診療所
3	熊本大学病院	15	栖本病院
4	熊本医療センター	16	天草地域医療センター
5	沢田内科医院	17	天草中央総合病院
6	熊本総合病院	18	上天草総合病院
7	八代市立椎原診療所	19	湯島へき地診療所
8	人吉医療センター	20	新和病院
9	公立多良木病院	21	山鹿市民医療センター
10	くまもと県北病院	22	阿蘇医療センター
11	安成医院	23	小国公立病院
12	水俣市立総合医療センター	24	そよう病院



地域医療・総合診療実践学寄附講座

## Ⅳ 専門医資格修得後のキャリア支援について

専門医資格取得後も、熊本大学病院総合診療科として様々なキャリア支援を行っています。大学病院という診療・教育・研究機関の特色を活かし、個別のニーズに合わせ、臨床経験だけでなくアカデミックなキャリアも含め、様々な研鑽を積むことができることが特徴です。

専門医取得後の5年間は、これまでも増して重要な時期であると考えています。卒後6年目から10年目程度の若手医師を対象の中心とし、様々な指導、支援を行っております。もちろん、それ以上のキャリアをお持ちの方々に対して、ご要望に応じた支援を行うことも可能です。

医師としての臨床能力を磨くことはもとより、指導医として医学生から専攻医までの様々な世代への教育の経験を積んでいただくことができます。熊本県内に多数存在する連携機関の協力の基、各人の要望に応じた多彩な研鑽を積むことができる場を用意しています。また専門医資格取得後、変化する各人の様々な要望に即し、総合診療領域外、あるいは関連する領域についての研修を行うことも支援します。各人の興味のある分野をさらに伸ばせるよう、熊本大学病院総合診療科がバックアップしていきます。令和3年度末、新たな専門医制度下での総合診療専門医資格修得者4名が、大学病院や地域の医療機関等に勤務しながら各人の希望に応じた研鑽を積んでいます。

また、熊本大学の大学院へ進学し、医学博士の修得を目指す方の支援も行っています。それまでの臨床経験の中で得た様々な疑問の解決を目指し、各人の興味に応じた臨床研究を推進し、学位の修得を目指した論文作成の指導を行います。社会人大学院学生として、大学病院外で勤務しながら、研究を行うことも可能です。令和3年度末現在、2名の専門医資格修得者がこの博士課程に在籍しています。

更には、熊本県の医師就学金貸与制度や自治医大の卒業生など、地域での診療に従事する義務があるの方々に対しても、義務の償還を行いながら、キャリア形成支援を継続することが可能であるのも特徴です。総合診療科と当寄附講座及び地域医療支援機構が一体となって、引き続きそれまでの研鑽で身に着けた能力を生かし、様々な施設、あるいは地域で活躍の場を見つけることを支援しています。

## Ⅴ 講演会

主催

第5回 熊本大学総合診療セミナー「Multimorbidity(多疾患併存)のみかた」  
2021年5月28日(金)

第5回  
熊本大学  
総合診療セミナー

5 / 28 Fri  
19:00~20:30

参加費  
無料

「Multimorbidity  
(多疾患併存)のみかた」  
講師:大浦 誠 先生 南砺市民病院

対象	方法	申込
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 初期臨床研修医～医師7年目前後の若手医師</li> <li>▶ 総合診療に関心があるすべての医師</li> </ul>	<p>Web開催 (Zoom利用)</p> <p>事前申し込み後お申込みいただいたメールアドレスにZoomの招待メールをお送りします。</p>	<p>お申込は以下からお申し込みします</p> <p>申し込みフォーム用QRコード</p> <p>セミナーの開催についてはこちら</p>

熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座  
〒960-8655 熊本県熊本市東区南大前1-1-1

● 講師：南砺市民病院 大浦 誠 先生  
ZOOM による WEB 開催

主催

第6回 熊本大学総合診療セミナー「総合診療医のための鍼灸」  
2021年 6月 5日(土)

**講演：「総合診療医のための鍼灸」**  
講師：医療法人弘道会 口之津病院 総合内科 寺澤 佳洋先生

日時：令和3年6月5日(土) 18時～19時30分  
開催方法：Zoomによるオンライン開催  
申込方法：Web申込 <締切：6月3日(木)>  
QRコード、または下記URLよりお申し込み下さい。  
後日、招待メールをお送り致します。  
<https://forms.gle/Vc1P4icrF3CA06a6>

対象：総合診療に興味のある全ての医療従事者及び医学生

お問い合わせ：熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座  
TEL：1995-373-5721 熊本・山口

すべての研修医・若手医師のための  
**第6回 熊本大学 総合診療セミナー**  
主催：熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

● 講師：口之津病院総合内科 寺澤 佳洋 先生  
ZOOM による WEB 開催

主催

第7回 熊本大学総合診療セミナー  
「君には読影できるか！熊大総合診療セミナー×画像診断塾」  
2021年10月16日(土)

**第7回 熊本大学 総合診療セミナー** 参加申込受付中

「君には読影できるか！熊大総合診療セミナー×画像診断塾」  
講師：株式会社 ワイズ・リーディング 代表取締役 中山 善晴 (医学博士)

2012年から、臨床画像を学びたい医学生に、画像に触れる機会を提供しようと「画像診断塾」を開催されている中山善晴先生をお招きして「第7回熊大総合診療セミナー」を開催致します。  
臨床的立場から診断に迫る総合診療科と画像的立場から診断に迫る放射線科の融合による、とても興味深いお話しですので是非ご参加下さい。

開催日時：令和3年10月15日(金) 19時～20時30分  
開催方法：オンライン(Zoom)開催  
対象：総合診療に興味がある全ての若手医師・医学生  
申込方法：Web申込み  
(左のQRコードよりお申し込みください。後日、招待メールをお送り致します)  
申し込み期限：令和3年10月13日(水)

● 講師：(株)ワイズ・リーディング代表取締役 (医学博士) 中山 善晴 先生  
ZOOMによるWEB開催

主催

第8回 熊本大学総合診療セミナー「9つの極論で語る！オピオイド鎮痛薬の選び方、使い方」  
2021年12月23日(木) 19:00～20:30

**第8回 熊本大学 総合診療セミナー**

「9つの極論で語る！オピオイド鎮痛薬の選び方・使い方」  
＜講師＞ 医療法人社団 高野会 大腸肛門病センター 高野病院  
緩和ケア科 鳥崎 哲平 先生

患者さんの苦痛を取るための「極論」、きちんとできていますか？ 「副作用」がきちんと出ているかどうか、悩んだことはありませんか？  
この難問に聞いて、思い切って「9つの極論」語ってみましょう！  
オピオイドを使っている方も、これから使うかもしれない方も、必読のセミナーです！

・日時：令和3年12月23日(木) 19:00～20:30  
・開催方式：オンライン(Zoom)  
・申込方法：右記QRコードから事前にお申し込み下さい <申込期限：12月20日(月)> 後日、Zoom招待メールをお送りします

● 講師：大腸肛門センター高野病院緩和ケア科 鳥崎 哲平 先生  
ZOOM による WEB 開催

主催

第17回総合診療グランドラウンド「新型コロナウイルス感染症に対する『感染防止対策』  
～ 1年3カ月の地域住民への啓発活動とその意義～ 2021年12月15日(水)



- 講師：熊本託麻台リハビリテーション病院  
病院長 平田 好文 先生  
ZOOMによるWEB開催

主催

第18回総合診療グランドラウンド「事例から深める総合診療 イギリスと日本の比較」  
2022年2月2日(水)



- 講師：NTT東日本関東病院  
総合診療科兼国際診療科部長  
佐々江 龍一郎 先生  
ZOOMによるWEB開催

## 4. 専攻医の声

永田 洋介 先生 (専攻医4年目)

今年度は専攻医4年目として、人吉医療センター総合診療科の研修を行いました。総合診療科外来に加え、救急外来での救急対応、一般病棟管理や集中治療管理、新型コロナウイルス感染症対策と様々な経験をしました。様々な場面においても、健康を管理することはまさに総合診療そのもので、多面的に考えることの重要性を学びました。上級医による指導や、適切なフィードバックを受け、十分なサポートの元、仕事に従事することも出来ました。その他、研修日を利用し、上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡の手技を身につけ地域医療に従事しながらも各科専門医による治療も同時に学ぶことが出来ました。今後も引き続き成長出来るように充実した研修を続けたいと思います。

### 早川 香菜美 先生（専攻医4年目）

現在は天草の新和病院で勤務しており、外来、病棟、健康診断と多岐にわたり診療に携わらせていただいています。

天草は3年目になりますが、以前まで勤務していた病院とは地域性なども異なり、戸惑うことも多くありました。同じ天草市立病院ではありますが、病院の規模、高次医療機関へのアクセスのしやすさなど、その地域ごとに抱えている問題は異なり、以前はこうしていたけれども今はこちらのほうが良いだろうと臨機応変に対応していく必要があり、地域医療の難しさを感じました。また、そうした地域ごとの違いが地域医療の面白いところであると思っています。

来年度は天草を離れることになり、また違う地域での診療に従事させていただくことになりました。まだまだ未熟であり、他先生方やコメディカルの方、地域住民の方々に支えられながら日々診療を行っています。そんな方々に恩返しができるように自分にできる限りのことをやっていきたいと思っています。

### 本田 宏介 先生（専攻医2年目）

2021年度前半は、昨年度から引き続き、主に熊大病院の救急外来で研修を積みました。総合診療科の先生方や救急専門医の入江先生、田中先生を始め、整形外科、消化器外科、循環器内科、歯科口腔外科など、多くの診療科の先生方にお世話になりました。皆さんお忙しい中、快く教えてくださいました。

また、大学病院ならではの、専門性の高い疾患は各々の診療科の先生方が救外に来て診療するので、あまり手出しはできませんでしたがみているだけでも勉強になりました。この一年はとても贅沢な時間だったと思います。

2021年度後半は、天草の河浦病院で研修を積みました。この病院で初めて診た疾患はムカデ咬傷でした。他には鎌による切創、牡蠣の殻による切創、牛の角による打撲など、地域性が濃いものも多かったです。

また、ここは医師数が少なく、これまでほとんど経験がなかった当直を月7~8回こなさないといけなくなりました。最初の数ヶ月は、当直の時に5割以上の確率でCPA症例が来て、毎回緊張の連続でした。MRI機器などが無く、血液ガス分析でも大学病院より手に入る情報が少ないので、他の情報から病態を判断しないとイケません。処方できる薬剤の種類もこれまでの病院より少なく、どうすれば患者さんにとって一番良いか毎日試行錯誤が続いています。

2022年度も引き続き河浦病院で研修を積むことになりました。できることを少しずつ増やしていこうと思います。

### 松岡 隼平 先生（専攻医1年目）

こんにちは。令和3年度に総合診療専攻医プログラムを開始しました、医師4年目の松岡隼平です。1年間を通してプログラムを経験した率直な感想は「自分の求めていたものに1番近い」でした。

私がかねて医師を目指した時より、「なんでも診れる医師」を理想像として持っていました。それまで学生実習や初期研修を通して、臓器別に分け診療を行うのが当たり前の現状に若干の違和感を感じていました。専門性を突き詰めること特化した反面、Common Diseaseすらまともに診療出来ない医師を多々見てきたからです。医療全体の需要を満たすという視点で考えた時、ゼネラルな診療能力を各々の医師が持っていることはもはや必須の条件と言えます。加えて患者の退院後の生活にもしっかりコミットしたAdvanced Care Planning能力も全医師に求められる能力です。総合診療専攻医プログラムはその全医師に必須の能力を最短で学べるプログラムだと思います。これを学んだ結果、医療の全体像が捉えられるようになり医療そのものの理解が深まりました。それが自分の得た1番大きなもので、同時に自分が1番求めていたものでした。

総合診療科は今後も需要はかなり高いホットな分野だと思います。なんでも診たい、ひとつに決めることが苦手、医療全体という大きな視野を持ちたい、など動機はなんでも良いので少しでも総合診療に興味がある方は是非1度検討をしてもらえると嬉しいです。

# 4 教育拠点

## くまもと県北教育拠点

### 1. 活動概要

くまもと県北教育拠点は2015年4月、公立玉名中央病院に地域医療の支援及び地域医療の実践教育を行うべく開設されました。2名の常駐寄附講座教員でのスタートでしたが、2021年3月、玉名地域保健医療センターと合併し、新たに「くまもと県北病院 くまもと県北教育拠点」として移転し、2022年3月現在、指導医4名、総合診療専門医研修の専攻医2名に加え、さらに地域医療・総合診療実践学寄附講座から人的サポートもあり、病院の診療支援および実践的な教育の提供を継続しています。

2021年卒後臨床研修プログラム研修医(基幹型1年次:4名、2年次:3名、協力型:計3名)特別臨床実習(クリニカル・クラークシップ)の「総合診療科」の受け入れも積極的に行っております。地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフは、医学生、初期研修医、専攻医とともに総合診療科として救急外来、一般外来、入院、在宅医療に取り組み、地域の医療を支援しつつ、実践的な教育を行っています。7年経過した現在までに、診療面については救急車不応需率4%を下回り、救急車受け入れ台数も2800台/年まで増加し(いずれも県北地域最高の成績)、入院患者数も右肩上がりの業績を達成しております。その結果、2022年度の基幹型研修医は定員の8名を大きく上回る応募を受け、フルマッチも達成しました。

新型コロナウイルス感染(COVID-19)についても、田宮医師が対策委員長として指揮し、総合診療科も院内の感染対策チーム、有明保健所、郡市医師会および近隣の感染症指定病院と連携をとり、COVID-19のトリアージ業務、外来・入院診療ローテーションに感染チーム医師・呼吸器内科医師とともに参画しています。

これら診療、教育、COVID-19対策における貢献が認められ、2021年10月、田宮医師は病院長に任命されました。今後、田宮新体制の下、くまもと県北病院及び当拠点は、地域医療の発展の為、行政並びに玉名郡市医師会とも協力し、更に発展すべく、尽力する次第です。

くまもと県北病院が  
テレビで紹介  
されました




「KKT医療ナビDr. テレビたん」にて当院の情報が放送されました。

### 2. 年間活動実績

月	日	行事
4	1	オリエンテーション
	11, 14, 18, 21, 25, 28	郡市医師会新型コロナウイルス会議
5	11	玉名在宅ネットワーク会議
6	1, 4, 8, 11, 15, 18, 22, 25, 29	郡市医師会新型コロナウイルス会議
7	9	玉名在宅ネットワーク会議
	2, 6, 8, 9, 13, 16, 20, 23, 27	郡市医師会新型コロナウイルス会議
8	12	玉名在宅ネットワーク会議
	3, 6, 10, 13, 17, 20, 24, 27, 31	郡市医師会新型コロナウイルス会議
9	10	玉名在宅ネットワーク会議
	25	有明地区研修医合同カンファレンス
10	3, 7, 10, 14, 17, 21, 24, 28	郡市医師会新型コロナウイルス会議
	1	田宮医師 病院長就任
11	8	玉名在宅ネットワーク会議
	1, 5, 12, 19, 26	郡市医師会新型コロナウイルス会議
12	12	玉名在宅ネットワーク会議
	2, 9, 16, 30	郡市医師会新型コロナウイルス会議
1	7, 14, 21, 28	郡市医師会新型コロナウイルス会議
	14	玉名在宅ネットワーク会議
2	4, 11, 18, 21, 25, 28	郡市医師会新型コロナウイルス会議
	1, 4, 8, 22, 25	郡市医師会新型コロナウイルス会議
3	11	玉名在宅ネットワーク会議
	14	くまもと県北病院CPC
	16	くまもと県北病院 卒後臨床研修プログラム管理委員会
	18, 25	初期臨床研修 修了式
4	1, 4, 8, 11, 15, 18, 22, 25, 29	郡市医師会新型コロナウイルス会議



### 3. 活動報告

#### ◆ 教育活動

##### ◆ 特別臨床実習

熊本大学医学部の1チーム3週間の特別臨床実習(総合診療科 クリニカル・クラークシップ)をくまもと県北教育拠点で受け入れています。

本年度も各学生に入院患者の担当を割り当て、それぞれが日常診療業務に医療スタッフの一員として診療に参加し、診療の中から自らのクリニカルクエストを見出し、これに基づいた論文検索から担当患者への適応までを期間内で実践することとし、学習成果の発表を抄読会形式で実施し、評価の場としております。

コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、時に訪問看護実習が中止されたり、実習そのものが中断されることがあり、院外実習のカリキュラムが十分に遂行できない状況がありました。そんな逆境の中でも訪れた学生は積極的に実習に参加し、コロナ禍でこそ経験できた実習を含め、最低限の成果は得られたものと考えます。

2022年度以降、依然としてCOVID-19診療を行いつつ、診療を通じた教育を更に発展させ実行する為には、科学に基づいた予防策を十分に実施し、指導医、専攻医、研修医、医学生の「屋根瓦式」の指導・教育体制が不可欠です。今後の引き続き多くの医学生が満足できる地域での医学教育の環境、質の向上に努めたいと思います。

ゆっくりだけど、確実に前進

くまもと県北教育拠点における週間スケジュール

1-2週					
	月	火	水	木	金
7:30			プライマリケアレクチャー	プレゼン研修	
8:00	救急合同カンファ	モーニングレクチャー			
8:30	医局ミーティング/総合診療科入院患者様回診				
9:00	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修
13:30	外来レビュー	外来レビュー	訪問診療 or 緩和ケア回診(不定期) or 病棟研修	外来レビュー/各種講義	外来レビュー
15:00	病棟研修	リエゾンカンファ		病棟研修	病棟研修
16:30	新患カンファレンス	病棟研修			皮膚科合同カンファ
17:00	振り返り				週間振り返り
17:30	自己研修				

3週					
	月	火	水	木	金
7:30			プライマリケアレクチャー	プレゼン研修	
8:00	救急合同カンファ	モーニングレクチャー			
8:30	医局ミーティング/総合診療科入院患者様回診				
9:00	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修
13:30	外来レビュー	外来レビュー	訪問診療 or 緩和ケア回診(不定期) or 病棟研修	外来レビュー/各種講義	外来レビュー
15:00	病棟研修	リエゾンカンファ		病棟研修	病棟研修
16:30	新患カンファレンス	病棟研修		TMEC	皮膚科合同カンファ
17:00	振り返り				週間振り返り
17:30	自己研修				

- プライマリケアレクチャー：  
熊本県地域医療支援機構で受講可能なオンラインレクチャー
- モーニングレクチャー：  
臨床のみならず、地域医療に関するレクチャー
- リエゾンカンファ：  
総合診療科入院患者の退院に向けての目標設定、艦長調整を多職種で検討するカンファレンス
- TMEC：  
クリニカルクラークシップ医学生による担当症例についての発表会



コロナウイルス拡散増幅検査(LAMP法)の風景

## ◆ 初期臨床研修(総合診療科研修)

2021年度は公立玉名中央病院の基幹型研修プログラムに3名の研修医がマッチし、基幹型2年次3名と熊本大学医学部附属病院のプログラムの協力医療施設として1名、国立熊本医療センタープライマリケアコースの協力型として2名、計9名の初期臨床研修医(研修医)を受け入れました。くまもと県北教育拠点は、総合診療科研修および地域医療研修を担当し、指導を行いました。

まず総合診療科研修で研修医は、外来・入院・訪問診療を研修し、自らが診療の始めから終わりまでを一貫して実践し、研修医中心の参加型研修を実践しました。研修医は患者を「主治医」として担当し、指導医との連携の中で中心的な役割を担います。この事で、研修医からは「自分の患者」という意識が芽生え、責任感と医師になったことの実感が得られたとの評価を得ています。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けつつ、十分な予防策を取った上、可能な限りの実習を実践しました。

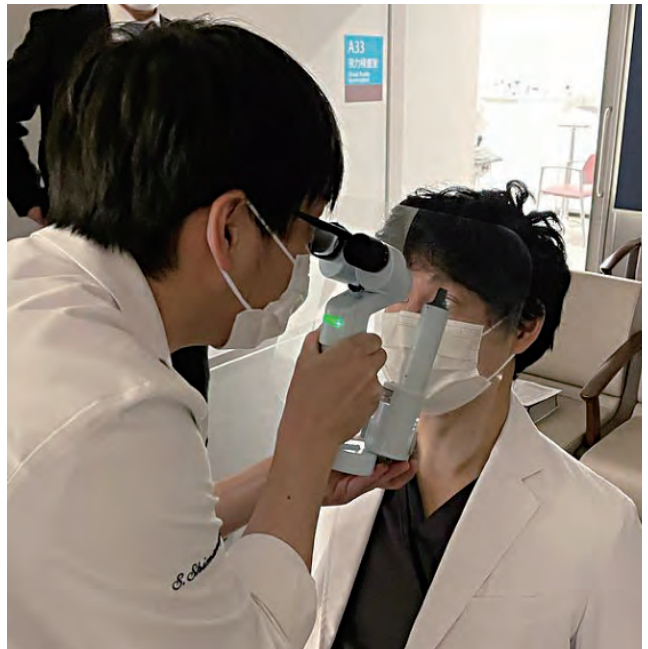
結果、2022年度の基幹型卒後臨床研修医は定員8名を大幅に上回る応募を受け、フルマッチを達成しました。

## ◆ モーニングレクチャー

モーニングレクチャーとは…

\*各診療科、部署のエキスパートから実践に即した知識や技術を学ぶ場です。写真は、眼科医による眼底鏡の使い方指導の風景です。

\*指導は医師に限らず、様々な職種のスタッフに協力していただき、幅広いテーマの研修が可能となっています。



## ◆ 講演会・セミナー

新型コロナウイルス感染の蔓延で講演会・セミナーの中止が相次ぎ、研修医の発表の機会が制限されました。その中で「有明地区研修医合同カンファレンス」「九州地域医療教育研究会」「日本プライマリ・ケア連合学会九州地方会」はWEB開催となり、初期研修1年次の嶋永先生と2年次の田添先生が症例発表を行いました。

## ◆ 総合診療専門医(専攻医)研修

くまもと県北教育拠点およびくまもと県北病院では、熊本大学病院 総合診療専門医研修プログラムの「総合診療II」、「内科研修」、「小児科研修」および「救急研修」を実施しており、2021年度は2名の専攻医が研修しました。彼らは自らの診療研修にとどまらず、初期研修医、医学生の教育の一端を担っています。この為、病院機能もかなりの部分で専攻医に依存する部分も多くなっており、専攻医の負担を軽減するシステムの構築(働き方改革)と総合診療専門医研修プログラムへのリクルートは重要になっています。

## II 診療

くまもと県北病院で、総合診療科での外来および入院診療を行っています。また、他診療科からの相談（院内コンサルテーション）や救急診療にも携わりました。

総合診療科での診療に当たり、くまもと県北教育拠点に常駐する指導医4名（内科専門医・指導医、プライマリケア認定医・指導医、病院総合診療認定医・指導医、リウマチ専門医）、スタッフ医師（総合診療専門医、家庭医療専門医、血液内科専門医）の他、研修医、地域医療・総合診療実践学寄附講座の教員も外来診療、救急医療に携わりました。

くまもと県北病院 総合診療科外来担当医表

月	火	水	木	金
小山	小山	田宮	松井	小山
草野	久保崎	草野	小山	久保崎
松岡	松岡	下地	久保崎	下地
佐藤（午後）				佐藤（午後）

## III 年間診療報告

玉名拠点開設から7年目となりますが、医学生、初期研修医、専攻医および地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフがチームを形成し、総合診療科外来として外来診療および他診療科からのコンサルト対応を行うとともに、平日の救急外来を担っています。コロナ禍で受診控えで受診患者数が減少する中でも、入院患者数は徐々に増加傾向にあります。

また、救急診療では受入件数も一時減少しましたが、徐々に増加傾向に転じており、不応需率も依然として低い値を推移しています。



2021年度 研修医 全9名

くまもと県北病院基幹型：6名（1年次：3名、2年次：3名）

熊大病院：1名（1年次）

熊本医療センター：2名（2年次）

# 天草教育拠点

## 1. 活動概要

天草教育拠点は、多くの方々のご尽力により、熊本大学病院地域医療・総合診療実践学寄附講座の2番目の学外教育拠点として、玉名教育拠点に引き続き2019年4月に設置されました。2021年度は2名の常駐寄附講座教員で運営しました。

設置の目標としては、①総合診療科としての天草地域の特性を踏まえた形での医療貢献②地域医療を含めた卒前卒後教育の充実、です。

医療貢献という点では、天草地域医療センター総合診療科として、おもに2次医療機関としての病院総合医の役割を担っています。天草地域の小病院、クリニックなどから紹介していただき、主に紹介外来としての一般外来を毎日行っています。また、入院診療、救急外来、少数ですが在宅医療も行っています。教育に関しては、2021年度はクリニカルクラークシップとして、10名以上の学生受け入れを行いました。また、2人の院外の初期研修医の受け入れも行い、昨年よりもさらに前進しました。そのような学生や研修医、また、昨年同様、地域医療実習の学生の一部、早期臨床体験実習の学生には、実臨床での実践的な教育、地域の特性を理解しつつ目の前の医療に落とし込む地域医療の教育などを行ってきました。

今後も、天草地域医療センター総合診療科に対して特に地域医療機関や院内から求められることは、主に病院総合医(特に総合内科分野)としての役割だと思えます。今後も地域医療機関や院内のニーズも考慮しつつ、教育拠点としてできること、現状のマンパワーでできることを考えていく必要があると思えます。

## 2. 年間活動実績

- 毎月2回 WEB症例検討カンファレンス
- 毎月2回 合同WEBカンファレンス
- クリクラ受け入れ 10名程度

## 3. 活動報告

### ◆ 教育活動

#### ◆ 特別臨床実習

熊本大学医学部では、1チーム3週間の特別臨床実習(クリニカルクラークシップ)を実施しており、地域医療実習として天草地域医療センターに1チーム1~2名の5年生が実習に来ています。このうち、実習中は1週間毎に各科を選択できるため、総合診療科を選択した学生を担当いたしました。

また、総合診療科としてのクリニカルクラークシップ受け入れも開始し、3週間の期間で7名に来てもらいました。

内容としては、入院患者の担当を割り当て、指導医と直接相談しながら医療チームの一員として積極的な診療参加を促しました。また、毎朝のカンファレンスでプレゼンテーションを行いました。外来、救急では、初診患者の病歴や身体所見などから検査計画や診断、治療につなげるトレーニングを担当医とともに行いました。さらに、天草の地域性も考慮し、通院にかかる時間や交通機関などの影響、普段の生活の状況把握、保健福祉なども含めた地域リソースの把握の重要性など、総合診療学的な内容も症例から直接的に学ぶ機会を設けました。

総合診療科としてのクリニカルクラークシップとして来た学生は、担当患者から患者中心性について興味を持ち、実習終了に際し科内で発表してもらいました。

## ◆ 初期臨床研修医

天草地域医療センターの初期臨床研修医からは総合診療科での学びは大変好評で、ほぼ毎月ローテーションする研修医がいる状態でした。

指導医と連携しながら入院患者を担当し、医療チームの一員として積極的に診療に参加しました。また、地域志向、患者中心の医療、家族志向などの総合診療学的な内容も症例をもとに学びました。

ローテーションの最初に学習目標を設定した上で、2週間毎に個別面談を行い、具体的な診療内容の振り返りと、より高いレベルに到達するためにはどうすればよいのかフィードバックしました。ローテーションの最後には終了まとめを行い、当科での研修の総括を行います。

## ◆ 総合診療後期研修医

総合診療研修プログラムのうち「総合診療Ⅱ」を担当しています。専攻医はこの1年は不在でした。

今後も、玉名、大学とも連携しつつ、熊本全体で専攻医の充実した後期研修医指導を行える体制を作っていきたいと考えています。

## Ⅱ 診療

### ● 外来担当

中村：月・木

松本：水・金

火：空田、鶴田（隔週）、谷口（隔週）

### ● 救急担当

適宜（その日外来担当でない医師）

## Ⅲ 年間診療報告

昨年に引き続き地域の先生方からは、「何科に紹介すればいいか悩む症例を紹介しやすくなった。」「原因のわからない症状でも相談できて助かる。」等のありがたい評価もいただいています。また、COVID-19感染対策についても、発熱外来などで対応しています。当院の総合診療科は、二次病院における病院総合医の役割として、

- ・医師会の先生方と密な連携をとり、天草の地域医療へ貢献をする事
- ・院内で専門医の負担軽減を目指しつつ院内連携を強化する事

が重要な役割だと考えています。

外来・入院で診る疾患としても多分野に及び、悪性疾患（悪性リンパ腫、白血病、胃癌、大腸癌、肝細胞癌、管内胆管癌、尿管癌、肺癌反回神経麻痺など、各種疾患の診断や各科への紹介、末期患者の緩和治療など）、感染症（EBV 伝染性単核球症、百日咳、マイコプラズマ、カポジ水痘様発疹症、深在性真菌症、日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、椎体炎・椎間板炎、腸腰筋膿瘍、感染性心内膜炎など）、膠原病関連（関節リウマチ、シェーグレン症候群、ベーチェット病、リウマチ性多発筋痛症、巨細胞性動脈炎、ANCA関連血管炎など）、運動器疾患（圧迫骨折、各種骨折や外傷、解離性運動麻痺など神経障害など）、ほかにも悪性貧血、ネフローゼ症候群、肝硬変、気胸、乳糖不耐症、めまい症、認知症、アナフィラキシーなどがあります。それぞれ、外来や入院で診断をつけて適切な科に紹介したり、当院で入院治療や外来フォローアップを行ったりしています。

現在当科が行っている取り組みの一つとして、ST、管理栄養士、認定看護師等と連携し、摂食嚥下チームとして、嚥下造影検査の検査数増加、嚥下機能についてアドバイザーとして地域ケア会議への参加なども行っています。

## Ⅳ セミナー

部長代理の松本がリーダーとなり、「熊大総合診療セミナー」を主催していました。

2021年度は年間を通して計4回の開催となり、会を重ねるごとに参加者が増えており、若手からの総合診療を学ぶことのニーズを実感しております。

# 河浦教育拠点

## 1. 活動概要

河浦教育拠点は2021年4月に設置されました。玉名教育拠点、天草教育拠点に引き続き3番目の教育拠点ですが、前の2つが二次医療機関での病院総合医タイプであるのに対し、河浦教育拠点は過疎地域の小規模病院におけるプライマリケアタイプの教育拠点です。少子高齢化で様々な職種の人的資源が少ない中、総合診療科医として効率よく地域づくりに貢献できるように、日々奮闘しています。また、地域医療を行っていく中で、実践的な教育を行っていく予定です。4月に常勤の寄附講座教員1名でスタートしています。10月からはレジデント1名が派遣となり、日々、研修に励んでいます。

## 2. 年間活動実績

4月 1日 河浦拠点開設式  
8月 6日 住民講座  
8月 17日 自立支援型地域ケア会議従事者研修会  
12月 2日 在宅医療サポートセンター会議  
12月 8日 しきちの会  
クリクラ受け入れ1名  
初期研修医地域医療研修3名

## 3. 活動報告

### ◆ 教育活動

#### ◆ 学生

熊本大学の特別臨床実習(クリニカルクラークシップ)「地域医療」枠では1ターム3週間の実習があり、今年から、河浦拠点も研修場所になりました。コロナ禍のため、なかなか臨床現場での実習ができない状況もあり、今年度は1名の実習で終わりました。実習中は、へき地での地域医療の現実を体験してもらい、学生なりに考えてもらいました。終了日には学生発表をしました

#### ◆ 初期研修医地域医療研修

赤十字熊本病院より1か月ずつ3名の研修医が派遣されました。2次医療機関とは違う、限られた資源の中での外来診療、入院診療、そして在宅診療を経験してもらい、それぞれにフィールドの違いによる仕事の視野の違いを感じてもらいました。また、この地域だからこそその歴史遺産見学や陶器見学、釣りなども体験してもらいました。

#### ◆ 後期研修

10月から1名派遣されました。単に患者数を増やすことや収益を上げることを目標とせず、研修医の成長過程、臨床能力に適した診療負担となるよう診療を調整しつつ、徐々に患者数を増やしてきています。日常業務の多忙さのため予定通りできないこともあります。毎日昼に担当患者についてのカンファレンスを行い、プレゼンテーションを行っています。

また、当院には自治医出身の若手医師もいるため、一緒に小勉強会を不定期で行い、高血圧、糖尿病といったプライマリケアには欠かせない慢性疾患の勉強も行っています。

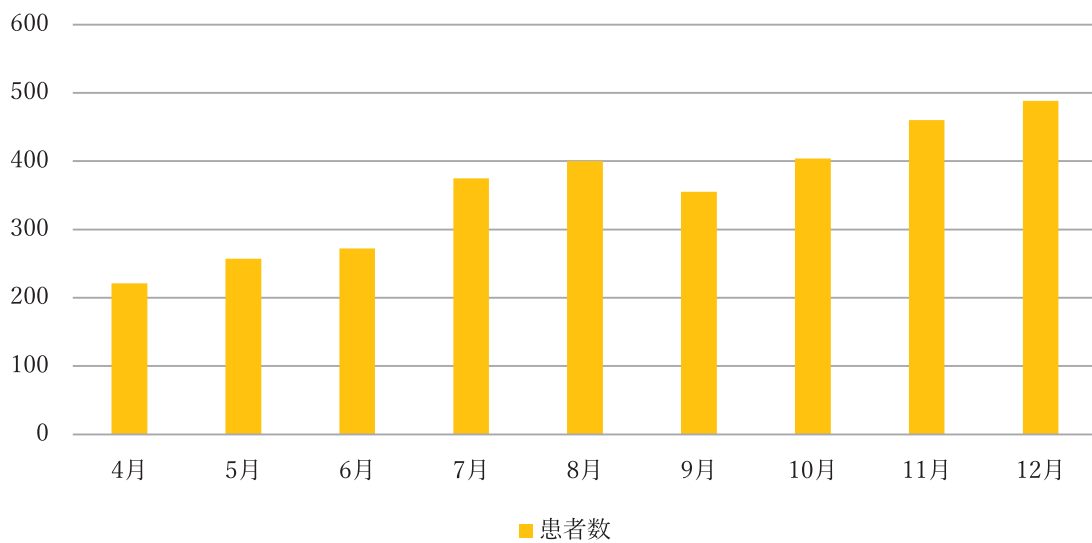
## II 診療

月・水・金 鶴田（初診+再診）  
火・水・木・金 本田（主に初診）  
訪問診療はチームで分担 火・水・金

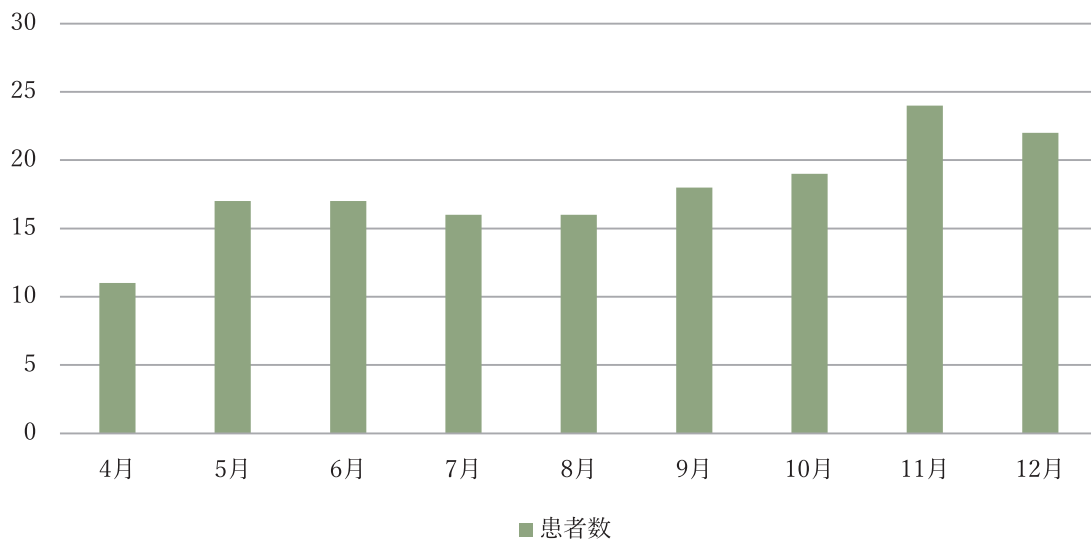
## III 年間診療報告

河浦病院はもともと外科、内科、整形外科で形成されていましたが、へき地の小規模病院であるため、診療科による患者層の違いはあまりありません。総合診療科が活躍するにはベストなフィールドのひとつです。2021年4月より総合診療科の診療が開始し、さらに10月からはレジデントが一名加わり、診療患者数は徐々に伸びてきています。今後、診療を続ける中で総合診療科の認知度上昇、地域への貢献度の上昇ができると思います。

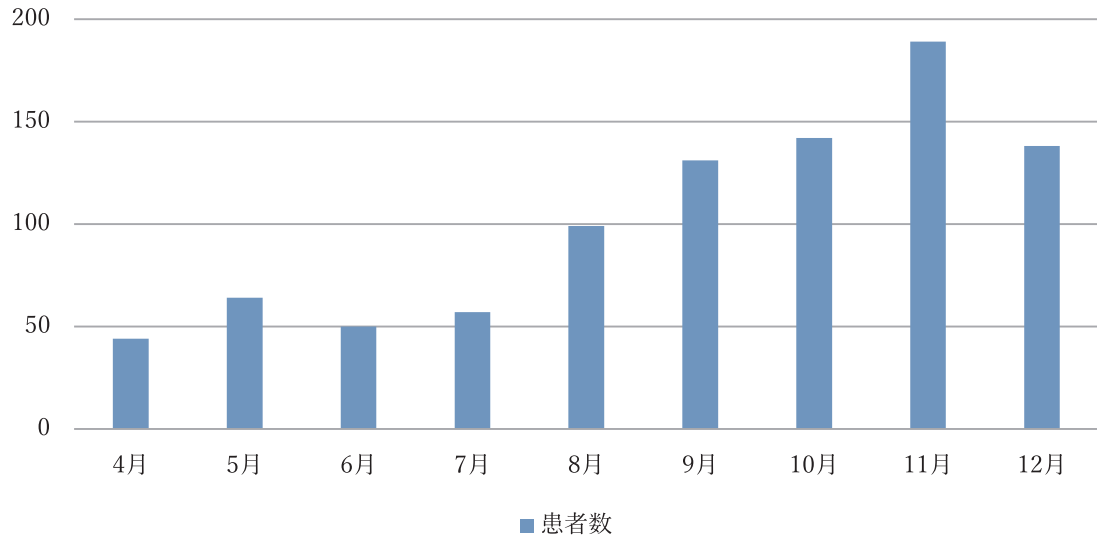
### 外来患者数



### 訪問診療登録数



## 1日あたり一般病棟入院患者



## Ⅳ セミナー



住民講座の様子



しきちの会の様子



在宅医療サポートセンター会議の様子



研修医発表会の様子



在宅医療チーム

# 5 熊本県医師修学資金貸与制度

## 1. 地域医療ゼミ

### I 概要

熊本県医師修学資金貸与制度を利用している学生は40名おり、毎月1回、地域医療に関する興味・関心を深めることを目的として、学生達で企画した内容を中心に「地域医療ゼミ」を開催しています。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、主にリモート（Zoom）での開催となりました。そのような中、遠隔地の講師によるセミナーの開催等、オンラインの利点を生かしたゼミを開催することが出来ました。なお、第1回ゼミは、新入生の歓迎をかねて対面で実施し、自治医大生、県外卒の学生も参加できるようZoomも対応できるハイブリット方式で、また、第11回ゼミは、6年生の卒業を祝って追出しゼミとして対面で実施しました。

1年生	5人
2年生	5人
3年生	6人
4年生	7人
5年生	5人
6年生	12人

### II 活動報告

#### ◆ 第1回地域医療ゼミ（2021年4月15日／対面とオンラインのハイブリット方式で開催）

新たに熊本県医師修学資金貸与学生として入学した1年生と自治医大の1年生の自己紹介、学年を超えたグループを作って歓談を行うなど、学生間の親睦を深めました。

#### ◆ 第2回地域医療ゼミ（2021年5月20日／オンラインにて開催）

漫画「19番目のカルテ」を読んで参加者で感想を述べあうなどディスカッション（マンガメデュケーション）を実施しました。コロナによりキャンパス内立入禁止となった為、急遽オンラインで開催可能なマンガメデュケーションへ変更でしたが、総合診療医の仕事について参加者の理解が深まることを期待しています。

#### ◆ 第3回地域医療ゼミ（2021年6月17日／オンラインにて開催）

「臨床推論」をテーマにゼミを実施しました。参加者は、臨床推論のやり方についてレクチャーを受けた後、グループに分かれて、実際の症例を基に診断仮説を立てて各グループの考えを発表しました。

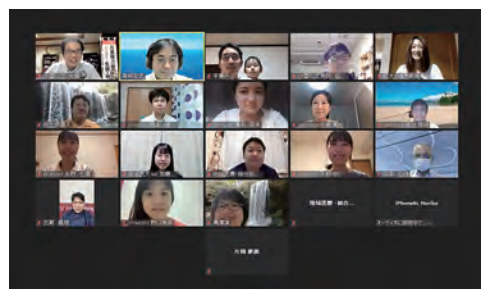
#### ◆ 第4回地域医療ゼミ（2021年7月15日／オンラインにて開催）

修学資金貸与学生の企画で阿蘇地域の地域医療について考えました。阿蘇地域を3つに分け、3つのグループに分かれた学生たちが、それぞれアウトブレイクルームを活用してディスカッションを行い、各地区の特色に応じた問題点等を話し合いました。



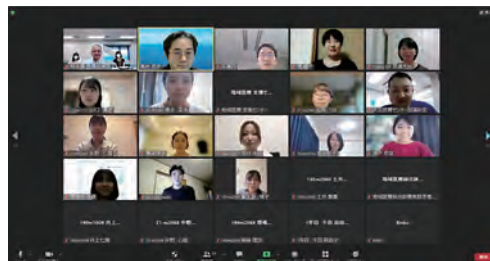
#### ◆ 第5回地域医療ゼミ（2021年8月24日／オンラインにて開催）

新型コロナウイルス感染症に脅かされている現在において、小国町出身の北里柴三郎先生の功績から人々がどのように感染症と向き合ってきたか、小国公立病院の片岡恵一郎先生に、北里柴三郎先生の生涯、功績について講演いただきました。また、小国町で日々コロナ対応されている小国公立病院の松田圭史先生に日々の新型コロナウイルス対応についてお話しいただき、現在の新型コロナウイルス感染症との向き合い方を学びました。



#### ◆ 第6回地域医療ゼミ(2021年9月16日/オンラインにて開催)

医師としてのキャリアと義務の両立だけでなく、ライフイベントが重なった場合にはどのようにできるのか、そのために準備は何か必要なのか等々の学生の疑問に答えるため、地域の病院でご活躍中の公立多良木病院の堤 龍子先生をお招きして、女性医師としてのキャリア・ライフプランについて講演いただきました。



#### ◆ 第7回地域医療ゼミ(2021年11月27日/対面にて開催)

令和2年(2020年)1月に策定された『熊本県医師修学資金貸与医師キャリア形成プログラム』の更新にあたって、変更しようとするコース案の内容について、対象となる学生や医師の意見交換会を実施しました。

#### ◆ 第8回地域医療ゼミ(2021年12月16日/オンラインにて開催)

今回は、自治医科大生の企画で、実施しました。自治医科大の概要について説明を受けた後、地域医療で必要と思われるスキルや学生時代にやっておくべきことは何か、などについて参加者がグループに分かれて話し合いを行いました。また、地域医療の現場で活躍される先生、また、最先端の研究活動を行っておられる先生自治医大卒の4人の先生方へのインタビューも紹介されました。

#### ◆ 第9回地域医療ゼミ(2022年1月24日/オンラインにて開催)

熊本県医師会が主催し、熊大病院地域医療支援センターと日本医師会が共催となる「令和3年度医学生・研修医等をサポートするための会セミナー」に参加しました。今回のテーマは、「専門医を取得する!」で、「総合診療専門医取得に向けて」、「内科専門医制度について」、「未来を創る子供たちを守るのが小児科専門医」と題して3人の先生から講演いただきました。

#### ◆ 第10回地域医療ゼミ(2022年2月2日/オンラインにて開催)

地域医療・総合診療実践学寄附講座が主催する第18回総合診療グランドラウンドに参加しました。「事例から深める総合診療 イギリスと日本の比較」の演題で、イギリスと日本両国の診療に通じておられるNTT東日本関東病院の佐々江龍一郎先生に講演いただき、今後の日本の総合診療専門医について考える機会を得ることが出来ました。

#### ◆ 第11回地域医療ゼミ(2022年3月24日/対面にて開催)

今年度最後となったゼミは6年生の追いゼミとして、対面による開催となりました。学生29名が参加し、卒業生挨拶、花束贈呈で6年生の卒業を祝いました。また、皆勤賞、功労賞の表彰、次年度より新たな幹事学年となる4年生代表からの挨拶や来年度の地域医療ゼミの実施計画についても説明がありました。



## 2. 令和3年度卒業生

### ● 村上 考利

私は8年間という少し長い期間、大学にお世話になりましたが、振り返ってみるとあっという間の学生生活でした。その中でも地域医療ゼミでの活動の思い出について、卒業というこの節目に思い起こさせて頂きます。

最も印象に残っているのは、1年生の夏季実習です。当時は基礎医学を学習し始めたばかりで、ましてや臨床の知識など微塵も持たない状態での実習でした。それどころか、宿泊合宿ということで楽しそうだな、という気持ちで参加していたのを記憶しています。しかし実習が始まると、当時の実習地である阿蘇の地域医療について学ぶことから始まり、阿蘇医療センターでは実際に実習させて頂いたり、医学部に入学してから初めて臨床というものに触れる機会を頂きました。特に実習の中でも地域医療の現場を体験できることは、卒業を控えた今考えても貴重な経験だと感じます。見知らぬ施設や機械から始まり、実際に診察する様子、行われる手技の数々…全てが新鮮で興味深いものでした。やはり初めて実習をした時のことというのは大変印象に残っており、当時の経験から今思う理想の医師像が形作られたのかなと思います。高学年になってからは、テストやコロナもあり中々実習の機会に恵まれませんでした。そのため、もう少しゼミに参加するようにすればよかったなという後悔もありますが、研修医になってからも初めて実習した時の気持ちを忘れず、何事も自ら積極的に取り組んで行きたいです。

最後になりましたが、地域医療・総合診療実践学寄付講座の先生方、スタッフの皆様をはじめ、実習等でお世話になりました多くの方々へ心より感謝申し上げます。8年間という長い学生生活、ご迷惑をお掛けすることも多々あったかと思いますが、暖かくサポートして下さい、大変お世話になりました。今後は医師として微力ながら熊本に恩返し出来る様、日々医療に邁進して参ります。

### ● 鶴田 恵理

6年間はあっという間で、テストや部活、バイトに明け暮れるうちに気づけば卒業の日が迫っていました。特にこの2年間は新型コロナウイルスの影響もあり、一瞬で過ぎ去っていったように感じます。最初に地域医療・総合支援実践学寄付講座の方々にお会いしたのは入学前の追いコンのときで、緊張して参加したのですが、先輩方とお話させていただく中でみなさんの温かい雰囲気を感じました。

地域医療ゼミでは上級生の方々と臨床推論をしたことが記憶に残っています。1年生のころ参加したときは基礎の知識もない状態で、何がなんだか全く分からなかったのですが、5年生の方に臓器の働きから説明していただきながら最後の診断まで一緒に考え、先輩方が偉大な存在に感じたのをとても覚えています。

夏季実習は毎年異なる地域に伺い、多くのことを学ばせていただきました。夏季実習では学年を分けて実習する機会が多く、低学年時は病院や診療所というよりも、老人ホームや保健センターといった場所に行くことが多かったです。当時は現場で働く方々のお話を伺うことで精一杯でしたが、今振り返ってみると、将来同じ職場ではなくても、地域で医療をしていく中でかかせない方々がどのようなところでどうしているのかを間近で見て、実際に体験することができたのは貴重な経験だったと思っています。学年が上がってからの夏季実習には、テストやコロナなどで参加することはできませんでしたが、大学の实習などで地域の病院に行く機会があり、入学当初は漠然としていた「地域で働く」ということが、少しずつ自分の中で想像することができるようになりました。

最後になりましたが、地域医療・総合支援実践学寄付講座の先生方、スタッフの方々には、6年間大変お世話になりました。地域ゼミや夏季実習を通して学んだことを活かしながら成長していけるよう頑張ります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

### ● 白奥 光一

気が付くと早いもので、卒業となることになりました。入学したての頃は卒業まで6年もあり、とても遠いと思っていたのですがあっという間でした。近年は新型コロナウイルスの影響もあり、大学の実習や対面での授業にも支障をきたす場面もありました。また、地域医療ゼミや夏季の地域実習なども一部中止となり大変残念でしたが、今まで多くの実習に参加させていただきとても勉強になりました。

6年間の振り返りとして、入学したての頃は地域医療についてどういったものなのか曖昧でしたが、大学での地域実習や地域枠での地域医療ゼミや夏季の地域実習などを経験していくにつれて地域でどういった医療が求められているのか、この地域ではどういった特徴があるのかなど、実際に現地で実習をすることで得られるものがたくさんありました。また、学年が上がっていくにつれて、必要になっていく医療の知識がどんどん増えていき、勉強しなければならぬことがたくさんあると感じました。

また、在学中には熊本での地震や人吉での水害などありましたが、多くの方と共に協力し合い乗り切ることができました。当時は不安などもありましたが、様々な経験をすることができました。特に熊本での地震の際は1年生として入学したてで、当時はまだ知り合ったばかりの同級生と助け合ったり、顔を合わせたことがなかった先輩方にも助けをいただいたりとお互いに協力し合うことの大切さと暖かさを感じました。

近年は新型コロナの影響もあり、以前と学業や生活ががらりと変わってしまった部分も多くあると思います。これからも実際どのように変わっていくのかは分かりませんが、もし困っている方がいれば自分から手を差し伸べることができるような人間になればと思います。

最後になりましたが、地域医療支援センター、地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方やスタッフの皆様には大変お世話になりました。また、地域医療ゼミや夏季の地域実習などでも多くの方にお世話になりました。今後もしよろしく願いいたします。

### ● 佐藤 実紗

月日が経つのは早いもので学生生活も終わりを迎えようとしています。先日国家試験を終え、現在は卒業と新生活の準備を少しずつ進めているところです。

私たちは入学直後に熊本地震があった学年であり、大学の授業が始まる前にしばらく同級生と会えない生活が続いていましたが、そのときに地域医療ゼミの事務の方が安否を気にかけてくださり本当に感謝しております。

6年間の活動の中で最も印象的なのは夏季地域実習です。地域に実際に出向いてその場所で実際に暮らす方々や診療していらっしゃる先生方のお話を聞くことは普段の実習ではなかなかできないことで、とても密度の濃い時間でした。医療資源に限られる地域では、診療において教科書的な判断ではなく実際にはその方の家族背景等を加味して考えることが大事だということも勉強になりました。また実習では自治医科大学の方と話す機会が多くありとても楽しかったです。またこれからも頑張ろうというモチベーションになっていました。

普段の地域医療ゼミはコロナ渦の中ではオンラインという形で先生方が企画を考えてくださり、多くの先生方のお話を聞くことが出来ました。すでに卒業された地域枠出身の先生がどんなキャリアを歩まれているかを話してくださる時間もあり、自分がどんな方向に進んで行くのかをイメージしやすくなりました。

6年間多くの方に支えられて勉強や部活、遊びどれも全力で取り組むことが出来ました。これからは今までの生活とは一変し社会人としての生活が始まりますが、周りへの感謝を忙しい日々の中でも忘れないように過ごしていきたいです。

地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方、事務の方々、そして県の医療政策課の方々、これまで多大なるご支援をいただき誠にありがとうございました。おかげさまで安心して大学生活を送ることが出来ました。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

### ● 武元 勇人

入学当時、大学生活6年間はとても長いだろうなと思っていましたが、あっという間に卒業となってしまいました。この6年間でふり返ってみると、とても充実し学びの多い6年間でした。入学したての1年生の頃は医学の知識もほとんどなく、上級生の先輩方に様々なことを教わりながら地域ゼミに参加していました。自分が上級生になって、あの頃先輩たちから教わったことを思い出すことで、勉学への理解がより一層深まったことも多々ありました。また、後輩たちに地域ゼミをどのようにして楽しんでもらうかを考えることは予想以上に難しく、先輩たちの偉大さを感じました。

さらに夏季実習では、自治医大生と共にフィールドワークや意見交換会などを通して地域医療の現状を

知るだけでなく、熊本地震や水俣病といった熊本の医療に携わっていくうえで知っておくべき出来事も、実際にその地域に足を運び深く学習したことはとても印象に残っています。

このようなゼミや夏季実習で様々な学びや地域の医療に携わる人たちの考えに接していくうちに、初めのうちはぼんやりとしていた地域医療についてくっきりとしてきて、その中で自分が将来どのように地域医療に携わっていけばいいか、また、どのようにすれば地域の医療に貢献できるかなどの考えが年々具体的になっていきました。これもすべて地域ゼミの機会を設けてくださった多くの方々のおかげであり、これらを通して考えたことや感じてきたことを活かしてしっかりと地域の医療に貢献をしていけたらと思います。

### ● 高橋 啓太

長い道のりに思えた6年間の大学生活は小学校の6年間とは違い、あっという間に過ぎてしまいました。大学に入学した6年前、今の自分の姿を想像することはできませんでした。

入学式が終わり学年での合同合宿で同級生のことを知って、これからスタートだというタイミングで熊本地震が発生しました。ライフラインが止まり、1日1日の生活を考えながら過ごしていたら、あっという間に5月になっていました。この1ヶ月はこの6年間で最も短く感じた1ヶ月でした。

毎月開催される地域医療ゼミや夏季実習は、学年の垣根を越えて地域医療を深く考える特別な時間でした。特に印象に残っているのは、夏季実習で益城のテクノ仮設団地に訪問生活調査を行ったことです。皆で麦わら帽子をかぶり、1軒ずつお話を伺ったあの時間を忘れることはありません。その日宿泊した阿蘇の露天風呂が非常に気持ちよかったことも忘れないでしょう。ここ2年間は新型コロナウイルスの猛威により夏季実習は開催されていませんが、地域枠で入学したからこそ、学生のうちに県内各地域の医療や産業、食を自分の体で感じる事ができたと思います。

新型コロナウイルスの影響は病棟実習にも及び、リモートでの実習期間も長引きました。自分の目で見て手を動かす経験は通常より減りました。国試直前期も大学の図書館や勉強部屋が使えないなどありましたが、地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方やスタッフの皆様のサポートもあり、無事に卒業の日を迎えることが出来そうです。6年間ありがとうございました。今後とも宜しくお願い致します。

### ● 持田 香織

6年前に入学したときには、卒業はとても先のことだと思っていましたが、卒業を間近に控えた今振り返ってみると本当にあっという間の6年間でした。そしてこの6年間で数えきれないほど様々な経験をすることができました。6年間の地域医療ゼミ中でも特に印象に残っていることは、夏の地域医療特別実習と5年次のゼミです。

夏の地域医療特別実習は毎年異なる地域で実施されているため、複数の地域を比較しながら学び、同じ熊本とはいえ異なる特性や課題点を実際に自分の目で見て感じて学び取ることが出来たことは、大変貴重な経験でした。卒後地域で従事させていただく際にも、その地域を知り、そして地域に寄り添った医療を行えるよう、夏季実習から得た学びを活かしていきたいと考えています。

5年次には幹事学年として地域医療ゼミを運営することとなりましたが、ちょうど新型コロナウイルスが猛威を振るいはじめた頃で、例年のように4月からスタートを切ることが出来ませんでした。先生方にサポートしていただいたことで、Zoomを使ってゼミを行うことができました。それまでの対面でのゼミを踏襲しつつZoomでも可能なやり方で行うことは大変でもありましたが、4年までと違い自分たちで内容の提案を行うために、将来地域に従事する医学生として学ぶべきことは何か、今の自分たちに足りないことは何かをより深く考える機会となり、大変学びの多い1年でした。

6年間の学生生活を終え、スタートラインに立つこととなりますが、大学で培った経験や多くの学びを糧とし、これからも少しずつ前に進んでいけるよう精進したいと思います。

6年間本当に沢山の方々にお世話になりました。関わって下さいました全ての方々にご心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

## ● 吉岡 幸英

入学時には長いと思っていた6年間も、今振り返ってみるとあっという間のように感じています。入学して数日の地震に始まり2年間のコロナ禍での病院実習で終わるという通常では体験することのできない、濃い6年間を過ごすことができたと思います。この6年間を金銭面などの憂いなく過ごすことができたのも、熊本県医師修学資金制度を利用させていただいたおかげであり、大変感謝しております。

地域枠の活動としては1年次の夏季地域医療特別実習が特に思い出に残っています。前述した震災直後ということもあり、益城町に設置された仮設住宅にて聞き取り調査をさせていただきました。この聞き取り調査で、普段生活している中では気付くことができないほどに当たり前存在している、住んでいる地域で形成されたコミュニティの重要性を学ぶことができました。この経験は自分の中で地域医療について考えるきっかけとなりました。まだ医療については何も学んでいないと言っても過言ではないような1年生ではありましたが、このような機会に早めに恵まれて良かったと思います。

また、毎月開催される地域医療ゼミでは医療関連の知識を深めるだけでなく、物事の考え方についても学ぶことができました。参加させていただいた多くの会で様々な角度から「こんなことに疑問を持ってみてはどうだろう」という導き方をされていて、疑問を持って物事を見ていくことで理解が深まっていくのを実感することができました。他にも、あえて低学年の学生を指名して発表をする場面を与えてくださるのは、人前での発表を苦手としていた自分にとってはとても良い経験になりました。

ここに書いたこと以外にも多くのことを熊本県医師修学資金制度を利用させていただいたおかげで学ぶことができました。来年度からは医師としてここで学んだことを活かしていくよう努めて参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

## ● 五江 景明

自分は地域医療ゼミには2年生から参加させて頂きました。大学生活の後半は新型コロナウイルス感染症の流行があり、ゼミの活動も制限されてしまいましたが、地域医療ゼミでは多くのことを学ばせて頂きました。

毎月の地域医療ゼミでは、実際に地域医療に従事されている先生方のお話を拝聴したり、専門医制度や自分のキャリアについて考えたり、その他シネメディケーションなどを通じて学年を超えて多くの方と議論したりと、色々な角度から医療というものを考えることができ、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

また、色々な活動の中でも特に印象に残っているものはやはり夏季実習です。私は天草と水俣の2回の実習に参加させて頂きました。県外出身の私にとって、自分が将来仕事で関わるかもしれない県内の地域医療の現場に行くことはとても貴重な経験となりました。実際に地元の方たちとお話したり、問題点等も含めて地域の実情を自分の目で見たりすることで、医療だけではなく文字通り地域そのものについて理解を深めることができました。

夏季実習に参加する前の私は、地域医療とは基本的には住民の高齢化が進んでおり、医師や医療設備が十分でない地域で行われる医療である、という漠然としたイメージしか持っていませんでした。そして、どこの地域でも抱えている問題は程度の差こそあれ、大きな違いはあまりないのではないかと考えていました。しかし、夏季実習に参加したことで、一口に地域医療と言っても、住民のライフスタイルや医療に関する考え方、疾病構造等は地域ごとにそれぞれ異なるということを身をもって実感できました。今後医師となって地域医療に従事する際には、目の前の患者さんは勿論のこと、それ以外にもその地域に関する様々なことに興味を持って地域医療に取り組んでいきたいと思います。

最後になりますが、長きに渡り貴重な学びの機会を提供して下さいました先生方、関係者の方々には感謝申し上げます。本当にありがとうございました。